

大型スクリーンの事前の確認事項

バトン図面を要請し確認する

吊バトンの長さの確認

吊バトンの耐加重の確認

吊位置と共吊がないかの確認

ジョーゼット、看板、バナー、照明等が影響する

連結バトン部は加重をかけられない為 連結を避けて吊る必要がある

立面図を要請し確認する

下場と吊シロの確認

用意する吊具の長さに影響する

吊バトンの下場より上には吊れない

金具分の吊シロが必要

下場に構造物やステージがある場合は位置関係を確認する必要がある

設置の段取りやスケジュールを調整、要請、確認する

前提として受け身ではうまくいきません、どのような工程が最も効率が良いか考えます

特殊な事情がない限り吊作業は最初の工程で行う

他の部署との場所どりや段取りを決めておく

他部署の搬入時間をずらす等の要請も必要

ステージ、机、椅子等含めてスクリーンの設置スペースを空けておいてもらう

固定バトン、トラス、イントレ等に設置する場合はどのように吊りあげるかの想定が必要

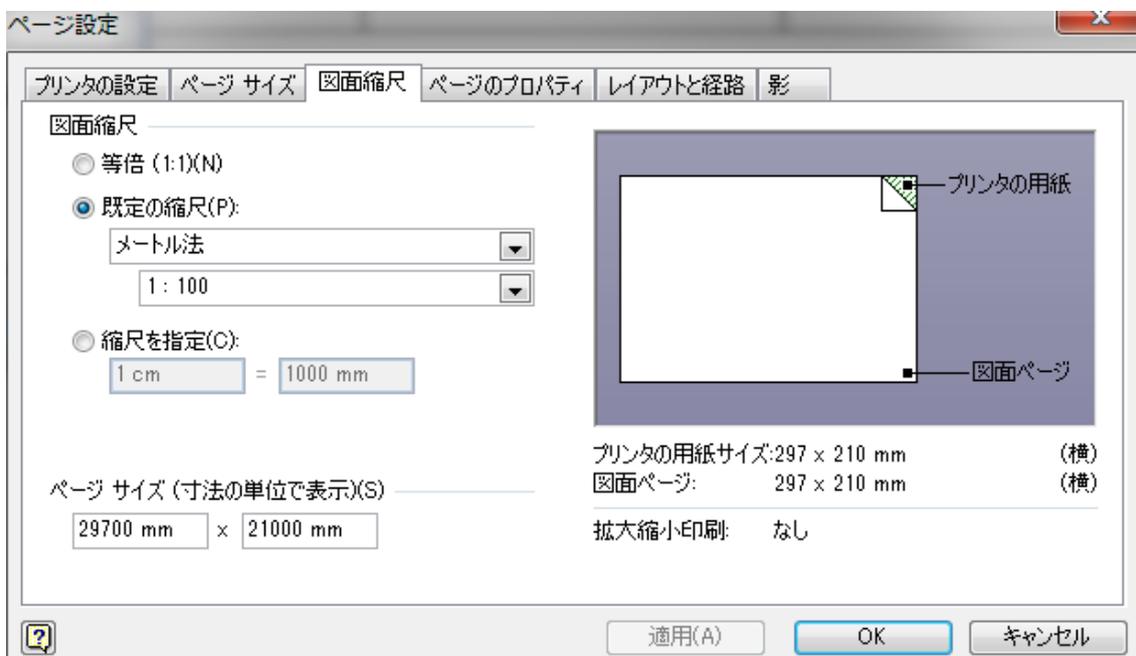
用意する工数、吊道具等に影響する

『鶴の間のバトン操作盤には「▼」「▲」と「収納」というボタンがあって「収納」を押すとより高く上げられますが、怖くて施工さんしか使いません。私たちがスクリーンを吊るときは「▲」一杯で飛ばしきりとしています。

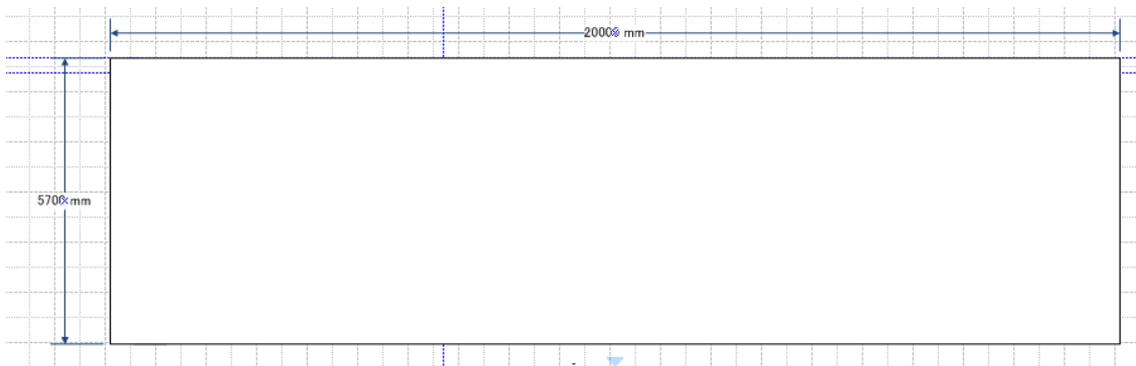
「▲」の操作だけではこの資料で言う 30 cm までしか上がりません。天高 5700 から 300 を引いて 5400 なので、まあまあ正しい数字かと思います。大昔一度キャノンケーブルをくくりつけて実測したことがありますがその時は 5500 でした。なにも吊らない空のバトンの状態です。のもあって、余裕も見て 5400 で計算しています。』

この程度の情報ですが十分検証は可能です
V I S I O を使って図面検証します

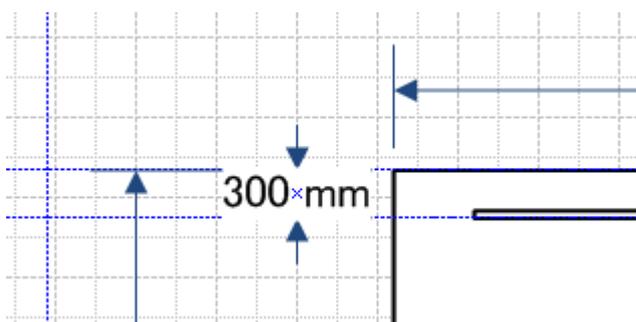
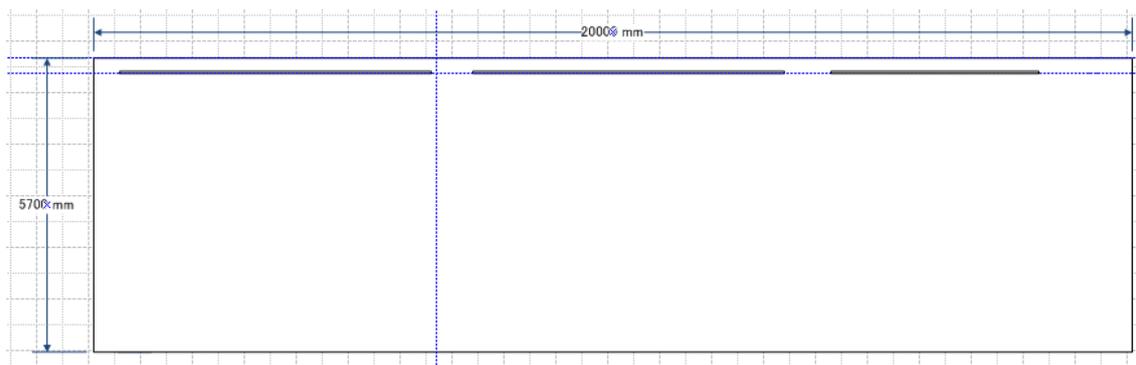
部屋の立面に合わせて寸法を設定します



簡単に部屋の立面図を作ります



もらった情報を元にボタン位置を落とします
 横の位置は見た目おおまかです
 高さはグラウンド（地面）からの情報があつたのでそれを充てています

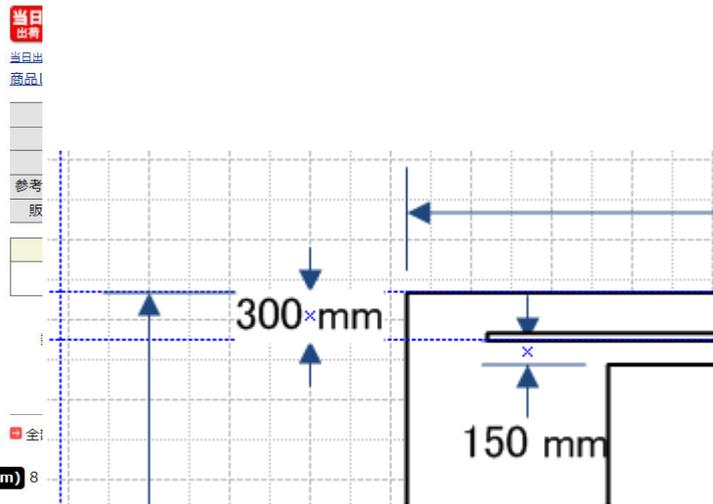


カラビナの長さは 81mm
 イーザーフライは 30mm 計 111 mm 余裕を持って吊下限界は 150 mm としてみます

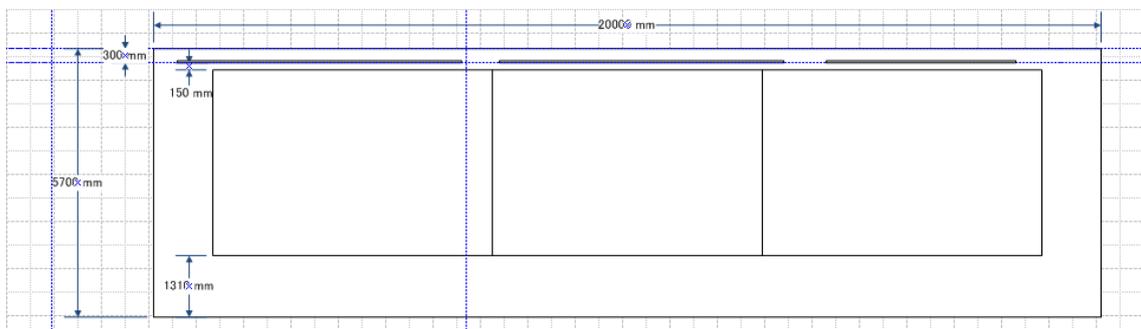
水本機械製作所
ステンレス ナス型カラビナ(環なし)



質量(g) 66.0 寸法L(mm) 81 寸法S(mm) 12 寸法D(mm) 8

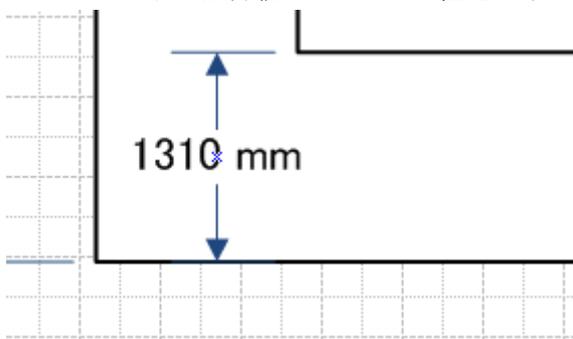


一番上の吊位置の吊位置限界（一番可能な上限）にスクリーンを落としてみます



寸法を取ると 1310mmです

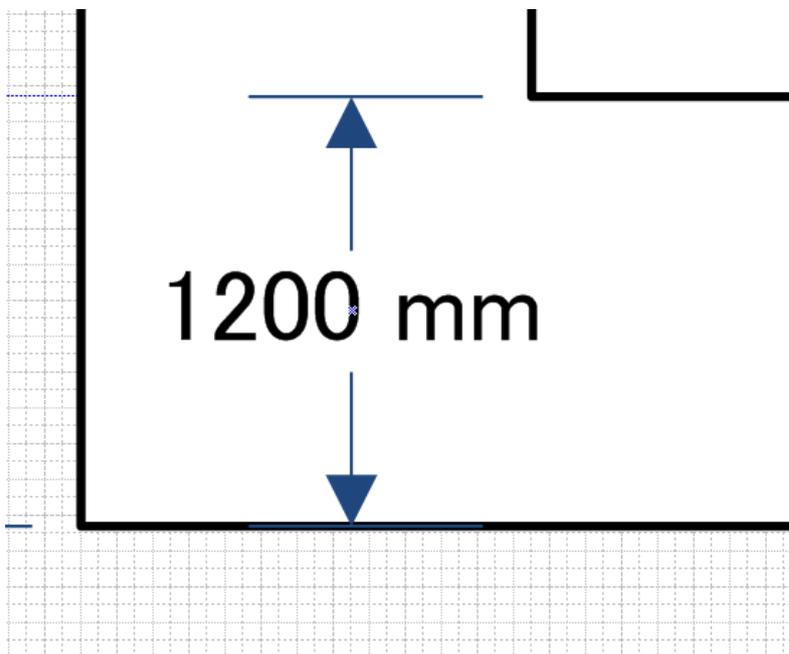
スクリーン下の限界値は 1300mm位ということになります



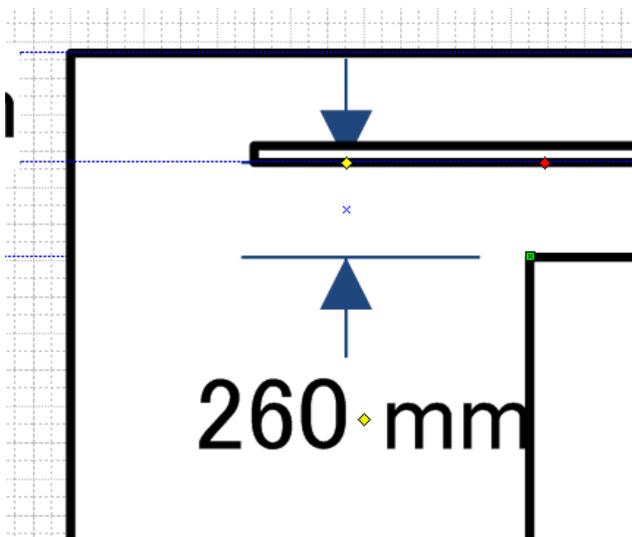
ここまでできれば ステージ上の情報と合わせればスクリーン高さ想定が分かります

1300mm以下で策定します

クライアントと確認した結果 下場 1200 となりました



図面に落としてみると吊下は 260mm となりました

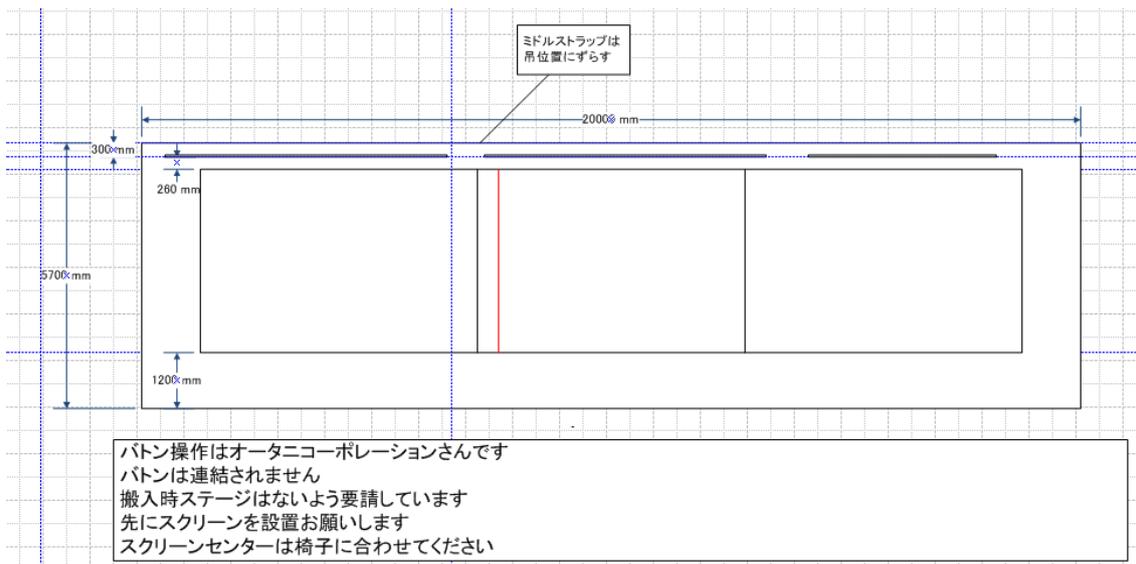


特記事項

ミドルストラップ上にボタンがない場合が想定されます

この場合はミドルストラップを吊り位置近くにずらした方がスクリーンの均一が取れます

最終的な指示書と簡単な段取り表です



ここまでできていれば不確定要素は少なくなります

また現場合合わせが破たんする要素もないため効率的な設置が可能です

以上